

# サタデープログラムニュース

講座番号:44 第2部(11:50~13:20)

## たかがクイズに何ができるか

講師:伊沢拓司さん

(東大王、QuizKnock 編集長)



私立開成高等学校在学中に日本テレビ第30、31回『全国高等学校クイズ選手権』連覇。  
東京大学経済学部卒、現在は東京大学院農学生命科学研究科農業・資源経済学専攻に在籍。  
(3月いっぱい卒業予定)  
TBS『東大王』にレギュラー出演  
(3月いっぱい卒業に合わせ出演終了)  
『QuizKnock』編集長  
多数の著書も手掛ける。

### クイズとの出会い

伊沢さんがクイズに出会ったのはいつだと思いますか？スポーツ界のプロでは小学校やもっと小さい時から始めている人が多くいます。伊沢さんもあれだけ有名になれたのは、小さい頃からクイズに慣れ親しんだからでしょ？と誰もが思うでしょう。実際のところ、私たちも伊沢さんに会うまではそう思っていました。

しかし、実は伊沢さんがクイズを本格的に始めたのは、開成中学生の時にクイズ研究部に所属した時からです。しかも最初はフットサル部に入りたかったため、あまり乗り気でなかったとか。でも、それにもかかわらず、第30回、第31回の『全国高等学校クイズ選手権』を連覇したというのだからやはり凄い方でいらっしやると改めて思いました。

また、東京大学を進学先に選んだきっかけも、「東大に現役で合格しないとテレビ各局からクイズ番組のオファーが来なくて、クイズを続けていけないから。」とクイズを続けていくための熱意が感じられました。

### パソコンに10万問！？

では、伊沢さんは日常からどのようにクイズを勉強しているのでしょうか。クイズ本ぐらい？伊沢さんのクイズ勉強は我々の予想をはるかに超えていました。クイズ本で知識を得るのはもちろん、今頃あまり売れていない雑誌を買ったり、家でテレビをつけっぱなしにしていたりなど、常に自分の周りに情報を流しています。

そして、得た情報をクイズ形式にしてパソコンにエクセルデータで保存しています。その数、なんと10万問。さらに、それらを検索しやすくすることで、いつでも見たいものを見られるようになっています。また、パソコンでクイズのページを開きすぎてパソコンの動きが非常に重くなるという、何ともクイズ王らしいハプニングも起きたりしています。そんな世の中に対する好奇心が伊沢さんをクイズ王に仕立て上げたのですね。

### 早い者勝ちの極み

それでは、クイズのどんなところが伊沢さんを魅了したのでしょうか。皆さんもクイズを見た事があると思います。クイズってとても楽しそうですね。何故でしょう？それはクイズはルールがとても単純であるからなのです。野球やサッカーなどにもルールはありますよね。実は、クイズやこれらのスポーツのもとを辿ると「早い者勝ち」の精神に行きつくのです。

サッカーではボールを先に取った方が有利、また、野球などでも先に一塁に走った方が有利、そしてクイズにおいても先にボタンを押した方が有利など、クイズとスポーツは根本的には同じなのです。しかし、ルールの観点から見ると両者の違いがはっきりと分かります。それは、「スポーツにはたくさんルールがあるが、クイズには目立ったルールはない。」ということです。

だから、クイズは早い者勝ちの勝負そのものと言えるのです。これを分かりやすく説明すると、勝負というお酒があり、そのお酒には様々な割り方があります。水割りやソーダ割り、お湯割り等々・・・、その割り方をルールだとすると、クイズはお酒を割らずにそのまま飲むようなものなのと伊沢さんは説明されました。お酒を飲んだことのない中学生には・・・

もちろん、クイズをやっていく中で知識が増えるというのがありますが、それはあくまで伊沢さんにとってはおまけのようなもので、一番はやはり早い者勝ちの極みであること。それが、伊沢さんの語るクイズの魅力です。

### 当日は

伊沢さんがクイズ番組の裏側や戦術などについて皆さんに語ります！今回の講演で皆さんにもっとクイズに興味を持ってくれることを願っています。伊沢さんとの直接対決も行うので皆さんお楽しみに！



文責:中学2I 井上旺士、中学2I 沈自在